

有年の空

文責 塩田 進 TEL49-2081

< 今月の俳句 >

「雑草と 思っていたら 麦の列」

季節の移り変わりが一番感じられるのは、今頃だと思います。

昔の人は、1年の季節を24に分けていました。立春が終わると、雨水、啓蟄、春分と続きます。私たちの祖先が季節とともに移ろう自然を大切にしながら暮らしを営んできたことがうかがえます。

子どもの頃を振り返ると、季節ごとに遊びを変えながら、夕方遅くまで外で遊んでいました。今よりゆったり時間が過ぎていました。それが、いつの頃からか、季節の変化をあまり感じることもなく、1年が早く過ぎていくようになっていきます。

1年中、同じ野菜や果物がお店に並び、エアコンのある部屋で生活していることも原因でしょう。

風の動きや、空気の匂い、光の色、暑さ寒さを五感を働かせて感じるものが少なくなってきました。昔の人に比べて、人間としての感覚がだんだん鈍くなっているのです。

自然豊かな有年に生活しているのだから、まもなく田んぼの畦に芽生え始めるヨモギを摘んで、あんこのたっぷり入った草餅を作るのはどうでしょう。

季節の移ろいをきちんと感じる、心のゆとりを持って生活したいものです。

有年っ子展望台の完成式

2 / 27 (月) 10:00 ~

学校でも、子どもたちが山から届いた檜の皮むきをしています。

お世話になった人たちを招待して、保育所や幼稚園の人たちも小学校へ来てもらって、みんなでお祝いをしたいと思います。

全員の俳句発表、最後は展望台の上からの餅撒きです。

どうぞ、見に来て下さい。



< 先生のコーナー >

今回は 竹本 秀行 教頭先生です

有年小に着任して、早くも10ヶ月が過ぎました。

運動会・音楽会・有年物語などの行事を終えて、学校や校区の様子にも徐々に慣れてきました。

これまでに強く感じたことは、本校の地域の結びつきの深さと恵まれた自然環境です。

子どもたちの素直で優しい気質が

育ったのは、こうした土壤が

あったればこそだと

確信いたします。



★ 多くの方に観てもらった有年物語の次は、展望台の完成式です。地域の方々のおかげで立派に出来上がりそうです。子どもらのためならと、こんなに協力してもらえる学校は、正直そう無いと思います。早春の青空の下、展望台の上からパーッとお餅を撒くとさぞ気持ちいいでしょう。でも、私はやっぱり運動場に這いつくばって拾いたいですね。